

## 『2024年12月珠洲市チャリティーライブ活動』活動報告書

2024年12月

認定NPO法人ピースプロジェクト

理事長 加藤 勉

平素より支援者の皆様には当法人への多大なるご支援ならびにご協力を賜り誠にありがとうございます。

2024年12月1日『上田正樹R&B BANDチャリティーライブ』として能登半島珠洲市への支援活動を行いました。

ソウルシンガーとしてご活躍されている上田正樹さん自らのご提案を受けて企画、運営には石川県珠洲市ならびに地元ボランティアの方々のご協力を経て実施することができました。

チャリティーライブの前に会場では大阪・和歌山ライオンズクラブ様、B-R サーティワン アイスクリーム株式会社様ならびに一般社団法人ミライエ様のご協力のもと、6台のキッチンカー炊き出し支援も実施いたしました。

実施するにあたり、珠洲市が9月に発生した豪雨による洪水被害で今年2回目の被災地となり、能登半島地震被害の復興に大きく後れを生じている現状が懸念されましたが、炊き出しも実施することで当法人では「被災地への継続した支援」と判断し、決行に至りました。

また、当法人2名が現地入りしての遂行となり運営スタッフ不足の懸念もありました。しかし、ライブの器材搬入から終了後の器材搬出、キッチンカーの炊き出しの運営に、それぞれが地震・洪水による被災者でもある地元の方々が「自分たちの地元珠洲市の復興のために」と現地ボランティアとしてご尽力・ご協力くださったおかげで滞りなく活動を進めることができました。

さらに、チャリティーライブは珠洲市で活動されている「市民合唱団」の有志の方々にも参加していただく企画とし、2度の被災で受けた物理的・心理的ダメージを乗り越えながら被災者自らが「復興」に向けて「自分たちにできること」として支援活動に従事し協力してくださいました。

活動日当日は準備段階の時間から多くの被災者の方々が列を作ってキッチンカーの炊き出しを待つ様子が見受けられ、ライブの様子とともに北國新聞社の記事に取り上げていただいております。

1月から当法人の支援先として携わっている珠洲市の復興の道はこれからさらに厳しいことが予想される中、珠洲市の皆様と今回の支援活動を成し遂げたことは大きな意味をもっていくと自負しております。

ここに活動報告書として活動内容をご報告申し上げると同時に、改めて皆様からのご支援、ご協力に心より感謝を申し上げます。

## 【概要】

- 活動期間：2024年12月1日
- 実施場所：珠洲市珠洲市多目的ホール『ラポルトすず』
- 炊き出し（キッチンカー）総提供数：1200食
- 総受益者数：約800名

## 【協働・支援パートナー】

- AARジャパン
- ライオンズクラブ大阪・和歌山「キッチンカー派遣プロジェクト」有志一同
- B-R サーティワンアイスクリーム株式会社
- 一般社団法人ミライエ
- 珠洲市市民合唱団有志23名

## 【活動内容】

### 《前日》

11月30日(土)

上田正樹氏、R&B BANDメンバーは七尾市内ショッピングにてチャリティーライブ実施。ピース加藤・矢沢は現地合流、打ち合わせ実施、ライブ後搬出手伝い。

### 《当日》

12月1日(日)

9：00～ ：スタッフ(現地ボランティア) 集合、ラポルトすず会場設営準備開始

10：00～ ：炊き出し関係者・キッチンカー、現場入り準備開始

12：00～ ：キッチンカー炊き出し支援開始、提供スタート

・クレープx200食 ・シフォンサンドx200食 ・スパイスカレー x 100食

・大肉まん x 200食 ・ハンバーガー100 x 食 ・カップアイス x 200食

同～ ：チャリティーライブ入場整理券配布開始(ラポルトすず内)

13：00～ ：上田正樹さん、R&B BANDメンバー、会場入り、ライブリハーサル開始

14：00 ：完売により、炊き出し終了

15：00～ ：上田正樹さん、バンドと市民合唱団23名とのリハーサル開始

16：00～ ：リハーサル終了

16：30～ ：ラポルトすず開場 観客入場開始

17：00～ ：ライブ開始 (冒頭にピース加藤より挨拶ならびに紹介)

アンコールの2曲に市民合唱団参加

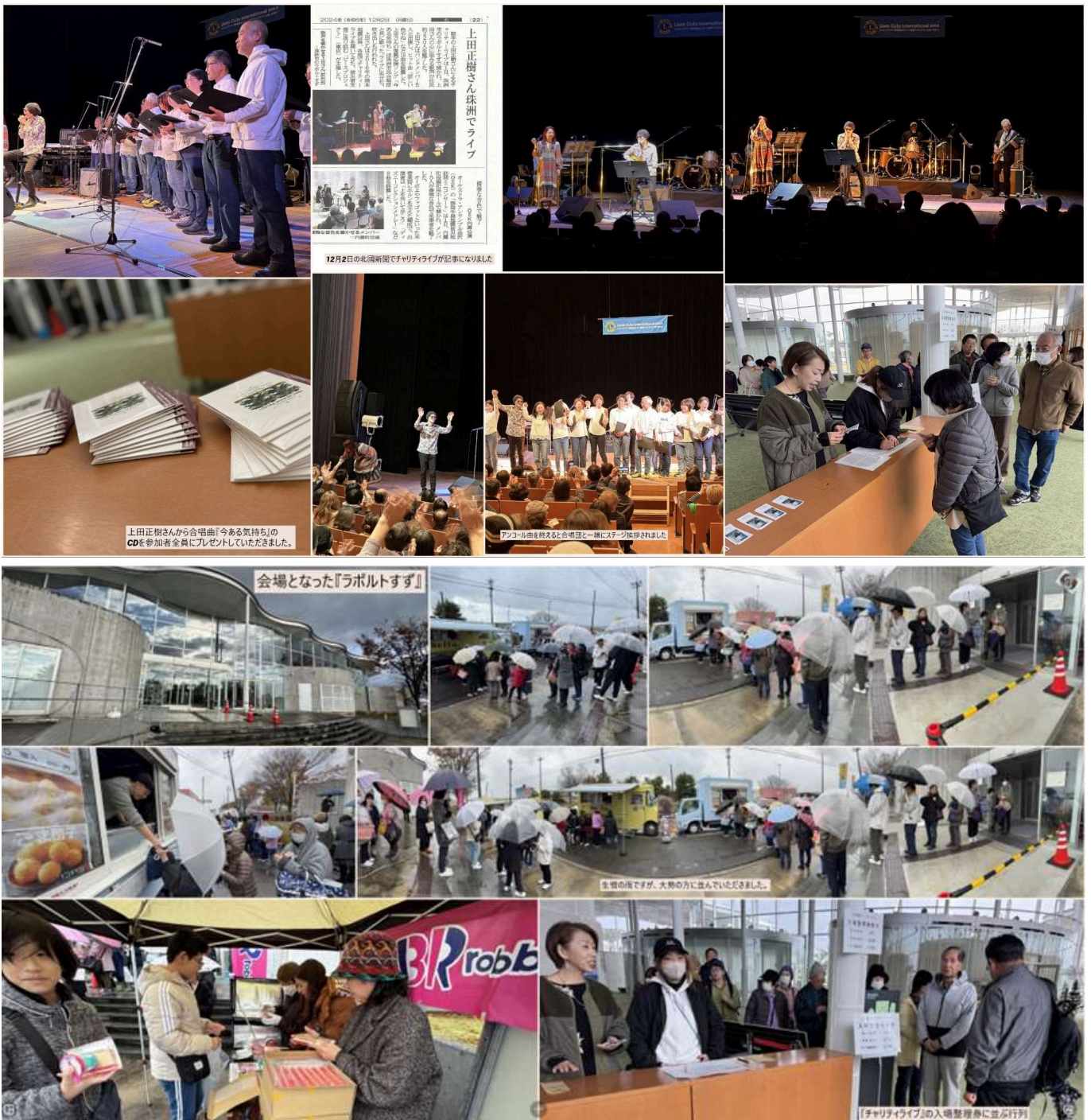
最後の曲「見上げてごらん、夜の星を」では会場の来場者も含めて全員で合唱

18:30～ : ライブ終了

19:00～ : ライブ会場搬出作業開始

20:30～ : 撤収作業終了

【活動紹介写真】





## 【所感】

今回の支援活動は当法人でも葛藤がある中での企画続行であったが、現地で炊き出しを楽しみに集まってくる方々やライブを見に来た方々、ボランティアとして参加してくれた地元の方々とお話する中で、「被災地が楽しいことをするのはいけない(不謹慎)なのではないか」と被災地自らも復興への過程で起こりがちな葛藤を持っていることが感じられた。また、地震災害からちょうど11か月目を迎え、「復興に疲れてきた」という正直な気持ちが吐露されていることも記しておきたい。

ライブ終了後に参加者を含め携わった皆様が口々に「音楽を聴いて過ごす楽しい時間が持てて嬉しかった」との声を伺うことができ、音楽が持つ力を認識するとともに、東京という被災地から離れた場所から当法人が「イベント」として行ったチャリティーライブではあるが、復興に葛藤し、疲労する被災者の心情・現況を大なり小なり払拭する一助であり続ける活動の継続の必要性も改めて認識した活動となった。

以上